

2022年(令和4年)

国内発

8月17日

水曜日

搬送困難 増加の一途

全国主要52消防の「救急搬送困難 事案」が3週連続で過去最多。新型 コロナ感染高止まりが要因に 21面

信州発

足元のアート生かし

北アルプス白馬三山と白馬村花のカタクリ。Tシャツにあしらわれたデザインの基になったのは… 17面

公共事業予算 4兆円超繰り越し 2面
みずほ銀にマイナス金利 7面
窮地のコイ 一丸の勝利 12面
731部隊の証言 祈念館展示せず 22面

社説 5面
コロナ死者急増/タリバン政権1年

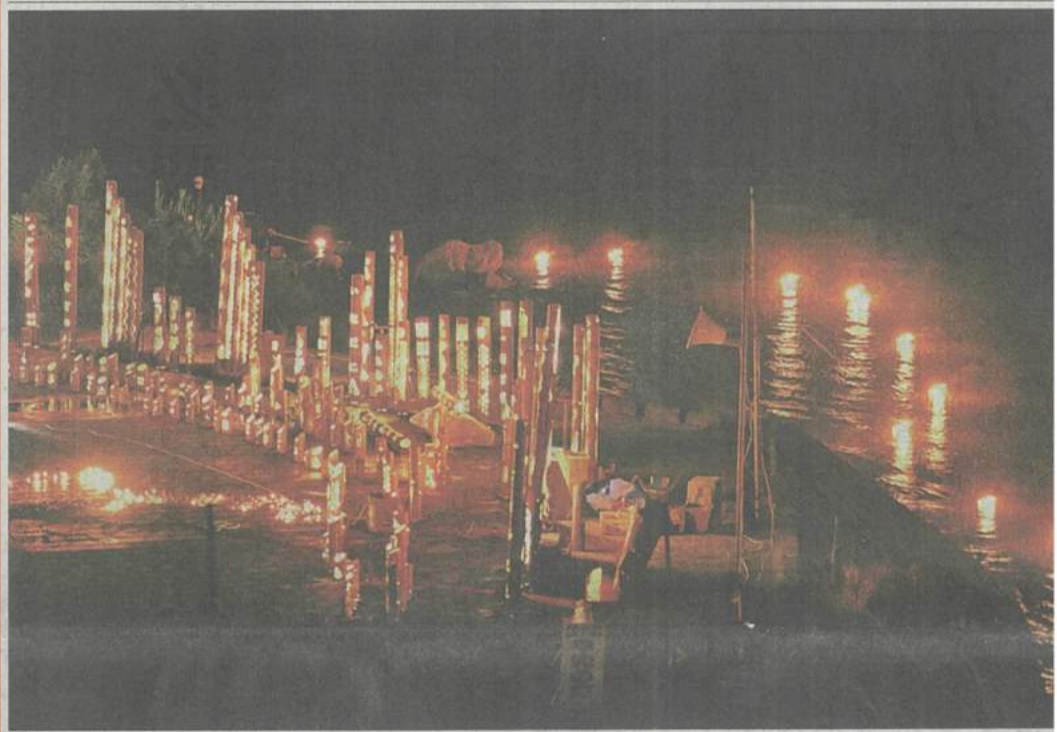
新型コロナ 全数把握見直し 今月下旬にも

感染が爆発的に広がった流行「第7波」で、逼迫する医療現場や保健所の負担増の一因になっているとして、自治体などから早期に見直しを求める声が上がってきた。17日以降、専門家や全国知事会などから意見を聞き、内容を固める。

新型コロナウイルスは、感染症法で「新型インフルエンザ等感染症」に位置付けられており、危険度が2番目に高い「2類」相当の措置に加えて、より厳しい対策も実施している。しかし医療現場などの負担が重く、

2類相当とされる措置の中でも特に改善を求める声が強いのが、感染者の全数報告だ。診断した医師や保健所は全ての患者の氏名や生年月日などのデータを政府の情報共有システム「HERISSY S（ハーシス）」に入力する必要がある。これに加え、保健所は入院勧告などの患者対応を行わなければならない。

感染症法はウイルスや細菌を感染力、重症化リスクに応じて分類し、実施できる対策を定めている。新型コロナウイルス感染症は、当初は暫定的に2番目に危険度の高い「2類」に相当する対応を取ったが、その後、入院勧告や外出の自粛要請など最も幅広い措置が可能となる「新型インフルエンザ等感染症」とした。毎年のように流行する季節性インフルエンザは対策が最も少ない「5類」。感染者数は全数ではなく、医療機関約5千カ所による定点把握になっている。



3年ぶり「飯田時又灯ろう流し」 天竜川を染める 幻想的な光の列

飯田市時又の天竜川で16日夜、灯籠を流して故人をしのぶ「飯田時又灯ろう流し」が3年ぶりに行われた。新型コロナウイルス流行の影響で2020年は中止され、今年も花火を打ち上げる時間を30分ほどに短縮して実施。花火を背に、幻想的な明かりがお盆の川面に揺らめいた。

約1000個の灯籠が流されると、柔らかな光がゆらゆらと浮かび上がった。真上には青やオレンジ色などの花火約500発が打ち上げられ、途中で降り出したあいに雨や雷の音を打ち消した。

地元住民や飯田商工会議所、市などで行委実行委員会が主催。例年のような露店や太鼓の演奏はなかったものの、実行委総務部長の植木司さん(72)は「祭りを絶やさないようにと思った。来年につなげたい」と話していた。

読経の中天竜川の水面に灯籠の明かりが揺らめいた16日午後7時9分、飯田市時又



旅館「陣屋」女将 宮崎 知子さん

観光地 一体で稼ぐ力必要

もてなしにつなげるため、予約や顧客情報の共有など旅館業務のすべてをカバーできるシステム「陣屋コネクト」を自社開発しました。紙の予定表や連絡用ホワイトボードは廃止し、勤怠管理を一元化。ログインしないと仕事にならない環境をつくり、70代の仲居さんも使ってもらえるようになりました。料理の単価アップや改装なども進め2011年には黒字転換できました。

復しましたが、婚礼や宴会などの日帰り利用は2年間、壊滅的でした。鶴巻温泉は箱根や湯河原からは1時間ほどかかり、観光地と絡めた集客は難しい。サービスを向上させ、お客さまにリピーターになっていただけたらいいですね。IT技術で駐車場の方向性は間違っていないかと分かりました。

観光業は大変だね、とよく言われますが、旅館はなくならないと確信しています。娯楽は真先に優先される事柄ではないけれど、なくなってしまうら心がすさんでしまう。旅に出て、おいしいものを食べ、気分を変えたい気持ちはこれからも変わらないはず。宿泊事業者は、時々求められるものを見極めていく必要があると思います。

益を従業員に還元できない悪循環に陥っています。地域一体で稼ぐ力が必要と考え、顧客や予約の情報などを宿泊施設だけでなく地域の観光・飲食事業者と共有できるシステム「里山コネクト」を開発しています。チェックインしたお客さまに、旅館にとどまらず街を歩いてご飯を食べ、地域経済を循環させてほしい。21年2月、上田市別所温泉の旅館「緑屋吉右衛門」を引き継ぎました。コンパクトで文化財などの見どころもあり、お宿や湯量も豊富な、いい温泉街ですね。里山コネクトと組み合わせ、盛り上げていきたいです。

山ろく 清談

ホンダのエンジニアだった夫が2009年、神奈川県秦野市の鶴巻温泉にある実家の旅館「陣屋」を継ぐことになり、主婦だった私は女将に転身しました。1918(大正7)年創業で将棋タイトル戦の舞台になった歴史のある旅館ですが、売り上げは右肩下がりで負債は約10億円。業務効率を一気に改善する必要がありました。予約台帳や売り上げ計算はすべて手書き。約1万坪の敷地で誰が何をしているか把握が難しく、連絡用の内線電話が鳴りっぱなしになることもしばしばでした。効率を上げながら細やかなお



旅館「陣屋」女将 宮崎 知子さん

東京都杉並区出身。2009年10月、神奈川県秦野市の鶴巻温泉元湯陣屋の女将に。夫と共に開発した業務システム「陣屋コネクト」を活用し、経営を改善した。システムを同業者に販売する会社の代表取締役最高経営責任者。44歳。北佐久郡井沢町の軽井沢プリンスホテルウエストで。

旅 旅館業界は集客力が弱く、旅行代理店への手数料がかさみ取

【南信】世相映したかかし並ぶ

【中信】ニジマスつかみ取り

【北信】一茶の直筆手紙ナスに感謝

【東信】母子像前で不戦の誓い新た

白馬村 アルル

応募方法

野心満々

大きな望みを持って

空模様にトンボも気がせくのだろう。平地へ帰ってもまだ暑い。彼らの「避暑」はもうしばらく続きそうだ。◆気象台が2年前まで長野市街地で続けてきた観測では、アキアカネの初見はかつて8月下旬から9月上旬だった。近年は9月中下旬。長引く暑さで戻るのが遅れているのか。心配なのは、数が減って発見されにくくなった可能性だ。水田の環境変化や農薬の影響が懸念されている。◆「生きて仰ぐ空の高さよ赤蜻蛉」。夏目漱石が1910年9月、伊豆の修善寺で詠んでいる。胃を患って静養中に危篤に陥った。一命を取り留めた後、赤トンボが飛ぶ空を見上げて自らの「生」をかみしめていたのだらう。俳人の大高翔さんが漱石の句を味わう著書で取り上げている。◆その赤トンボがやがて姿を消してしまうのなら、空をにらんでも虚しくなる。コロナの急拡大で亡くなる人がまた増えている。災害が各地で相次ぐ。ウクライナで戦争が続く。命のはかなさを思わぬ日はない。山から赤トンボが励ましに飛来する秋を待つ。

小説「草月物語」 7ページ

11面 12,13面

購読のお申し込み 012